

令和4年度 第1回 守谷市上下水道事業審議会

令和4年7月21日

報告事項

(1)令和3年度事業実績について

(2)令和4年度事業計画について

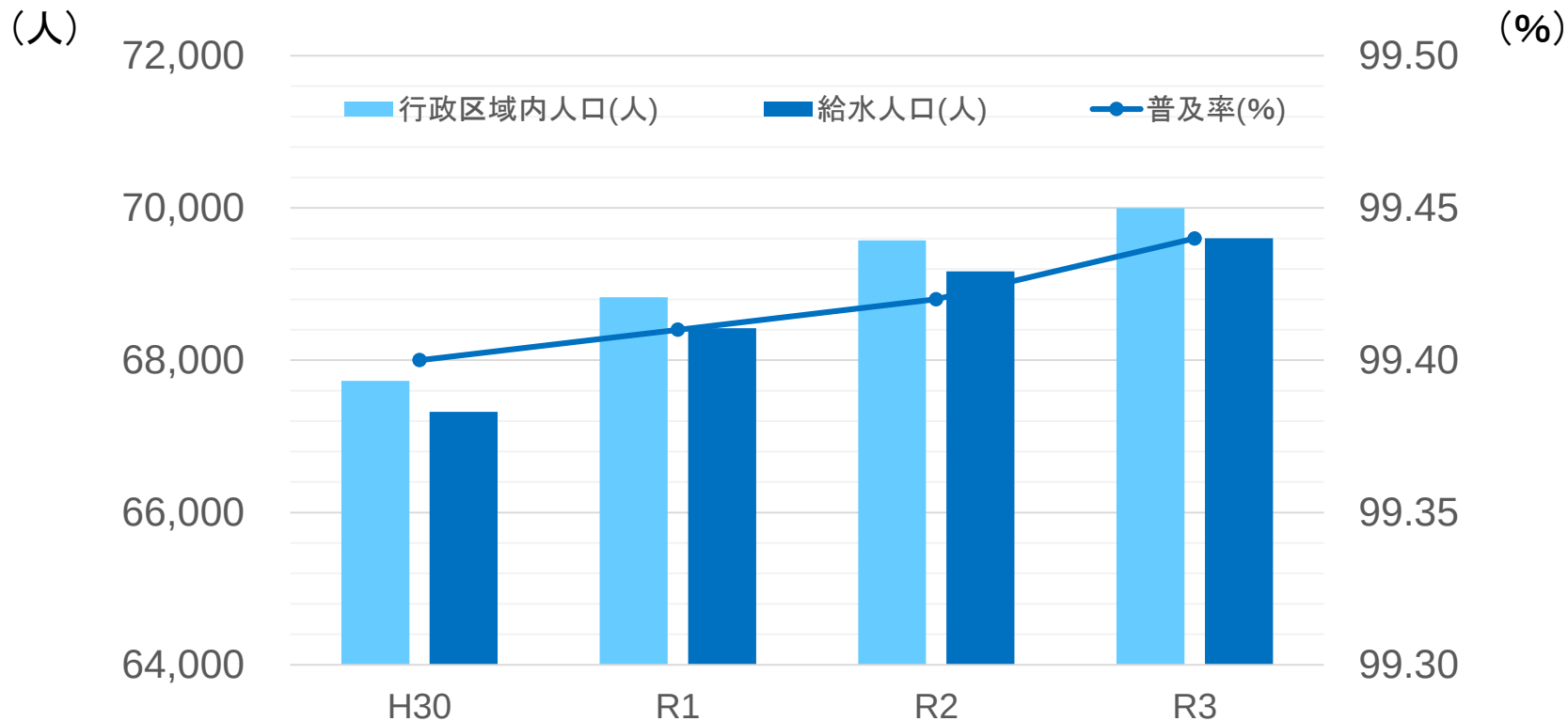
(3)その他

次期守谷市上下水道施設管理等
包括業務委託について

報告事項(1)

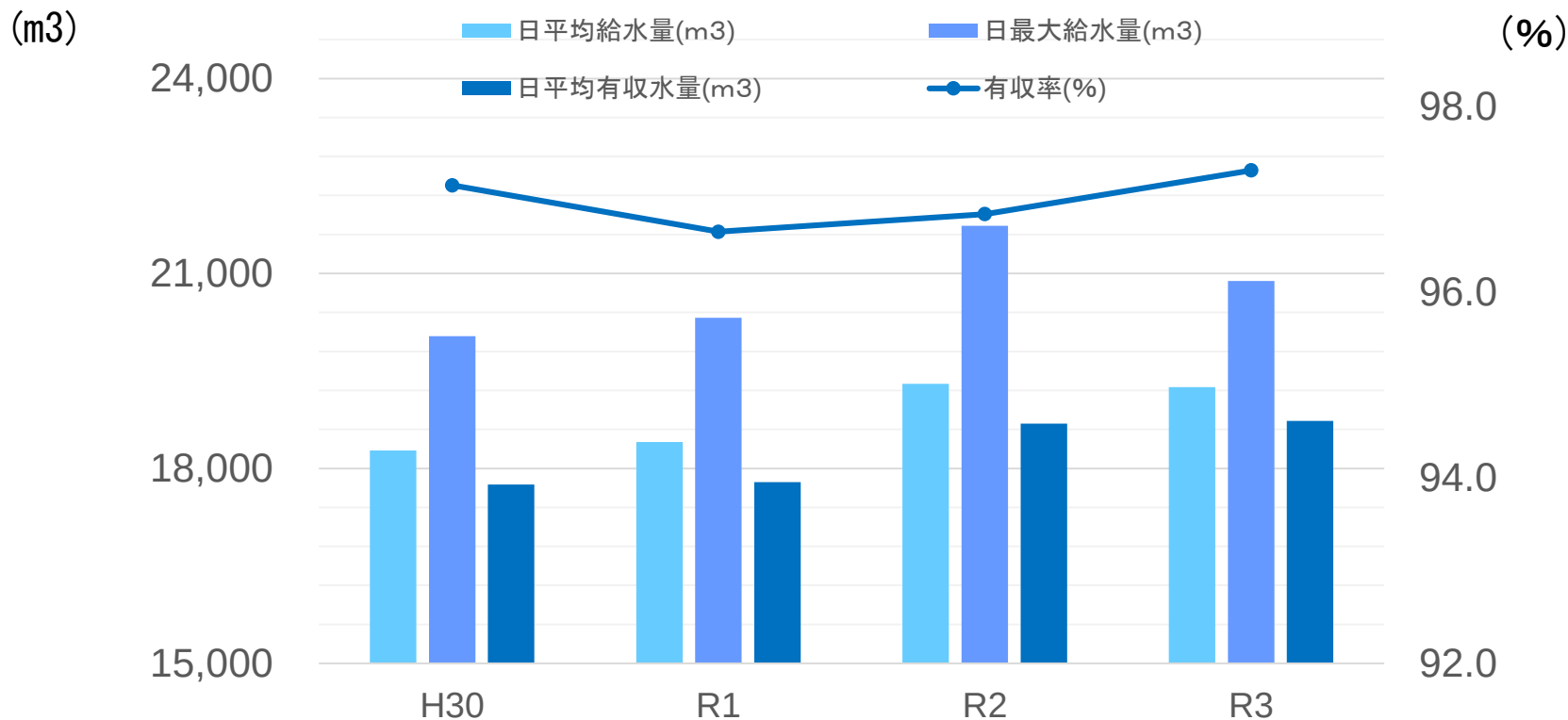
令和3年度 事業実績について

1 業務状況について 【水道事業】



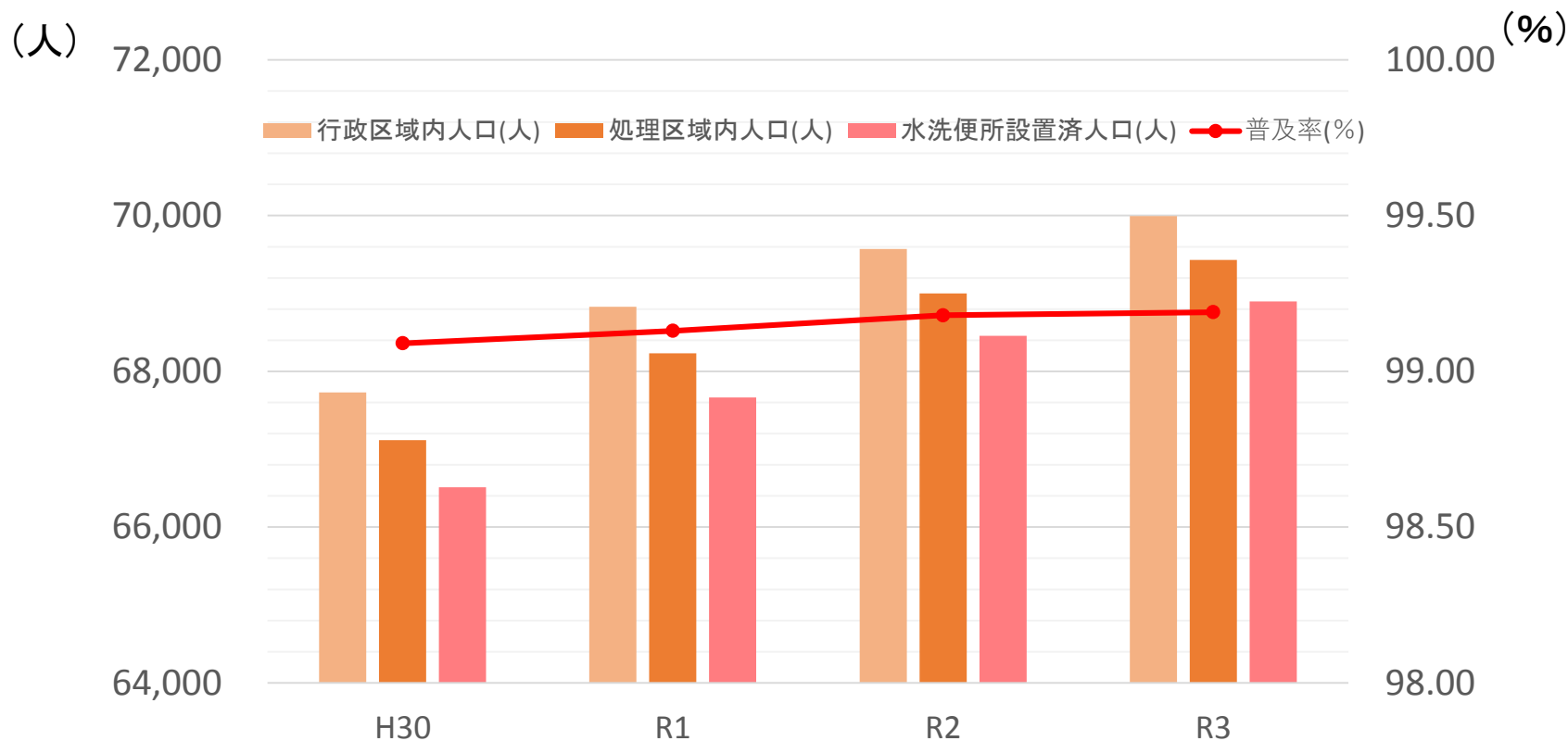
年度	H30	R1	R2	R3	R3-R2
行政区域内人口(人)	67,729	68,828	69,573	69,996	423
給水人口(人)	67,322	68,421	69,166	69,601	435
給水件数(件)	27,532	28,203	28,750	29,173	423
普及率(%)	99.40	99.41	99.42	99.44	0.02

1 業務状況について【水道事業】



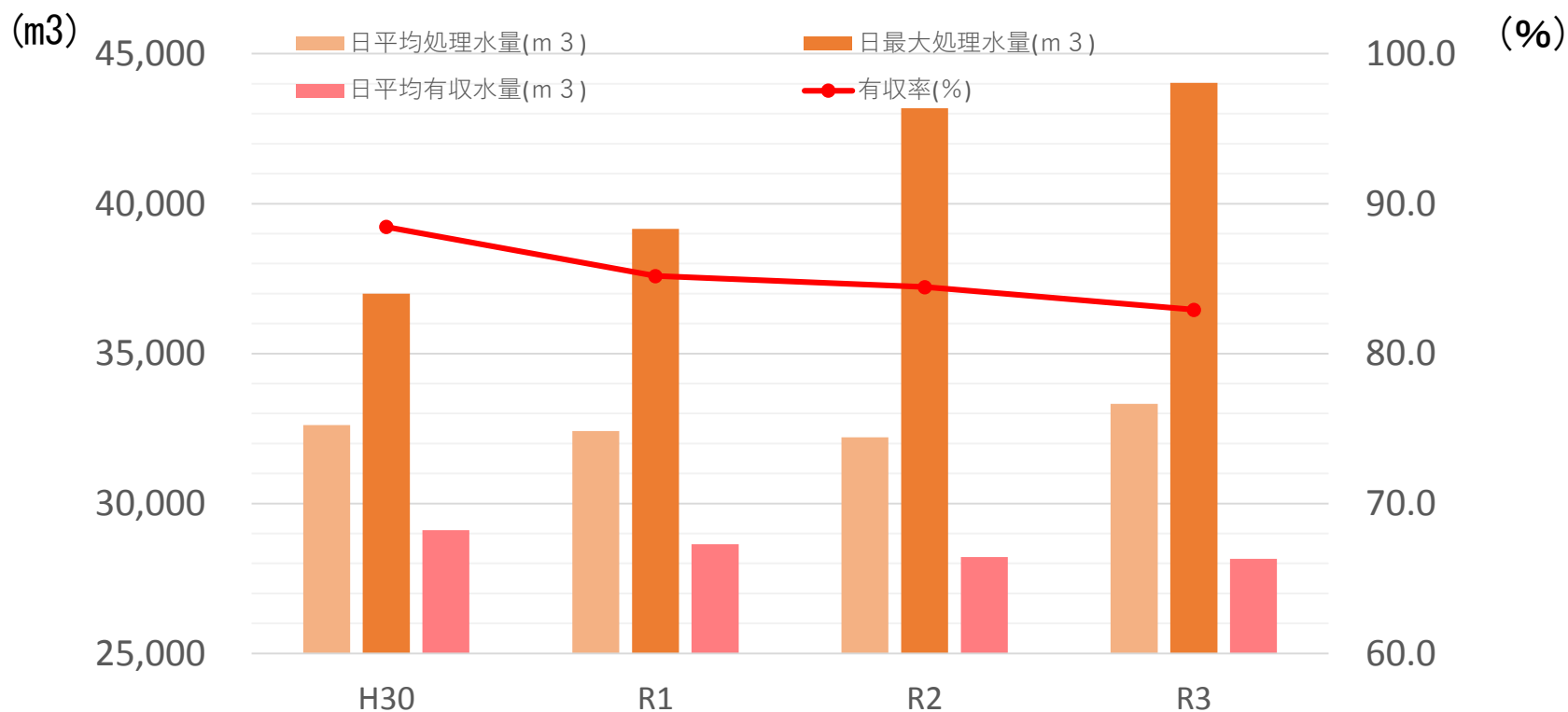
年度	H30	R1	R2	R3	R3-R2
日平均給水量(m ³)	18,275	18,404	19,301	19,249	△ 52
日最大給水量(m ³)	20,033	20,316	21,733	20,885	△ 848
日平均有収水量(m ³)	17,753	17,787	18,691	18,732	41
有収率(%)	97.15	96.65	96.84	97.31	0.47

1 業務状況について【下水道事業】



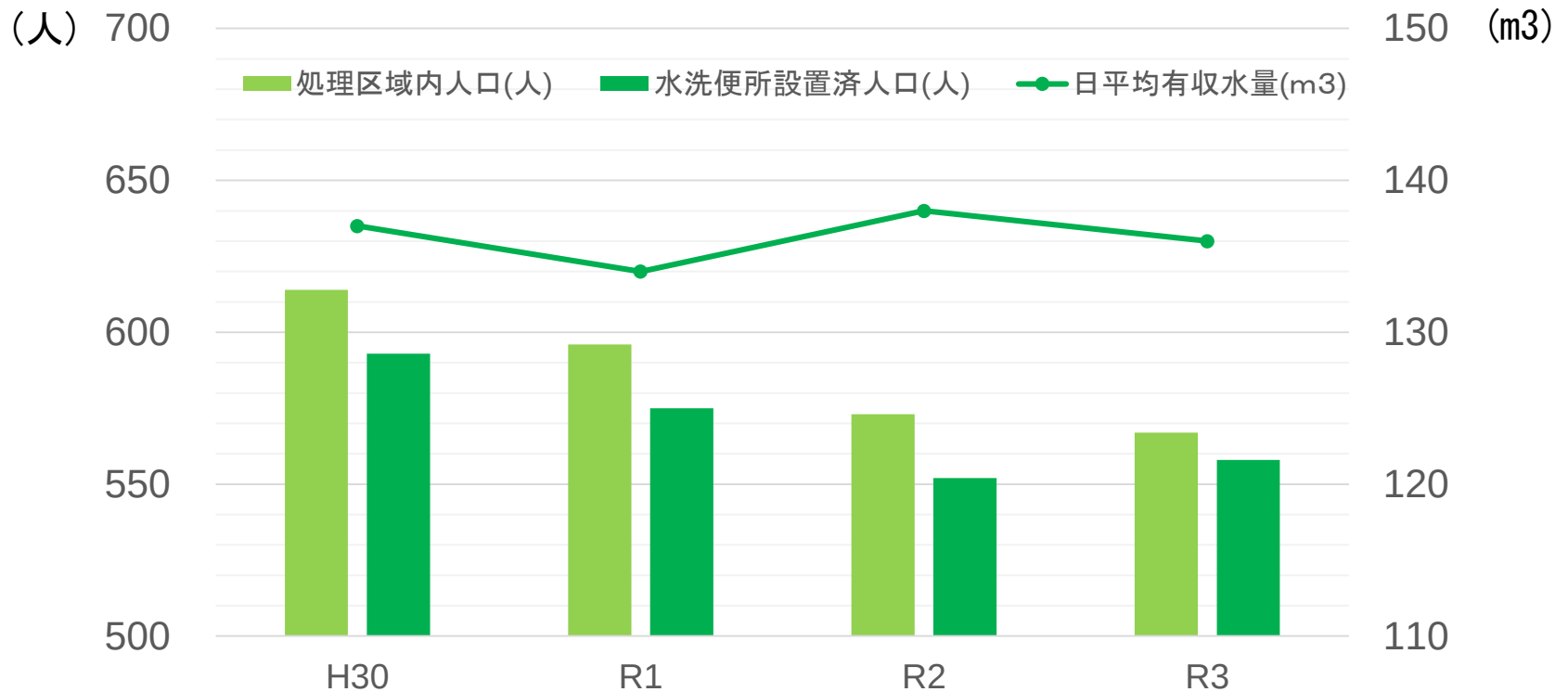
年度	H30	R1	R2	R3	R3-R2
行政区内人口(人)	67,729	68,828	69,573	69,996	423
処理区域内人口(人)	67,115	68,232	69,000	69,429	429
水洗便所設置済人口(人)	66,511	67,666	68,455	68,899	444
普及率(%)	99.09	99.13	99.18	99.19	0.01

1 業務状況について【下水道事業】



年度	H30	R1	R2	R3	R3-R2
日平均処理水量(m ³)	32,620	32,417	32,205	33,322	1,117
日最大処理水量(m ³)	37,002	39,160	43,180	44,030	850
日平均有収水量(m ³)	29,107	28,645	28,216	28,152	△ 64
有収率(%)	88.45	85.18	84.44	82.92	△ 1.52

1 業務状況について 【農業集落排水事業】



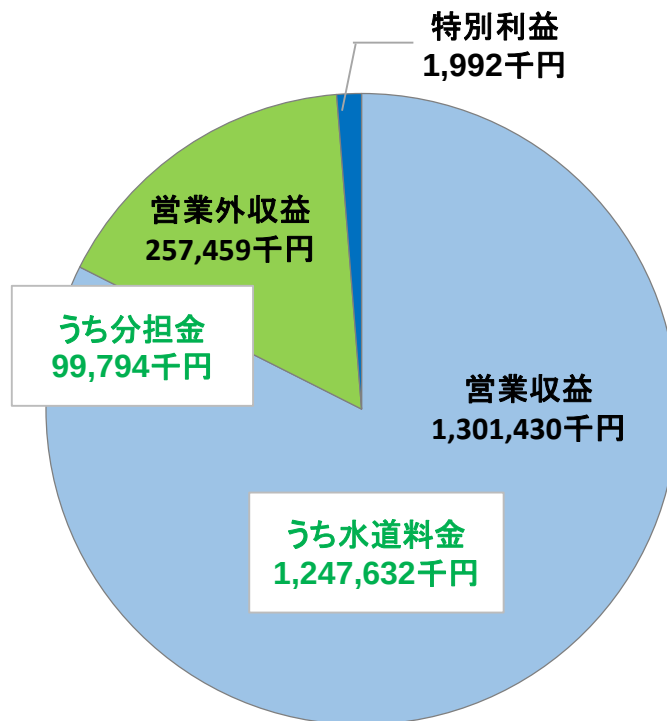
年度	H30	R1	R2	R3	R3-R2
処理区域内人口(人)	614	596	573	567	△ 6
水洗便所設置済人口(人)	593	575	552	558	6
日平均有収水量(m ³)	137	134	138	133	△ 5
普及率(%)	0.91	0.87	0.82	0.81	△ 0.01

2 経営状況について(決算) 【水道事業】

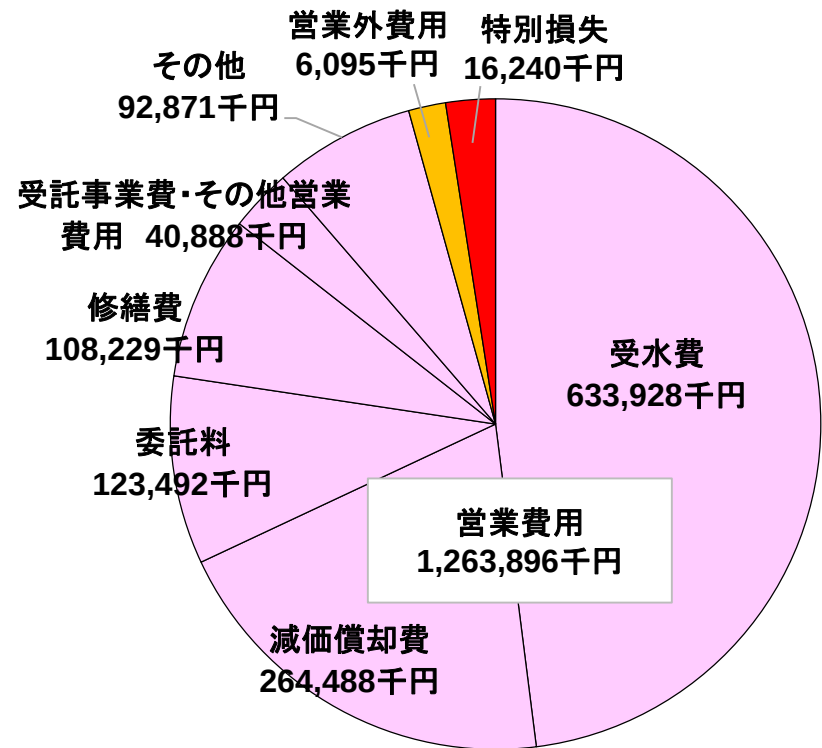
収益的収入および支出(損益計算書:税抜き)

※施設の維持や運転、包括料金委託などの費用(3条予算)

【収益的収入】1,560,881千円



【収益的支出】1,286,231千円



収益的収入－収益的支出＝274,650千円(当年度純利益)

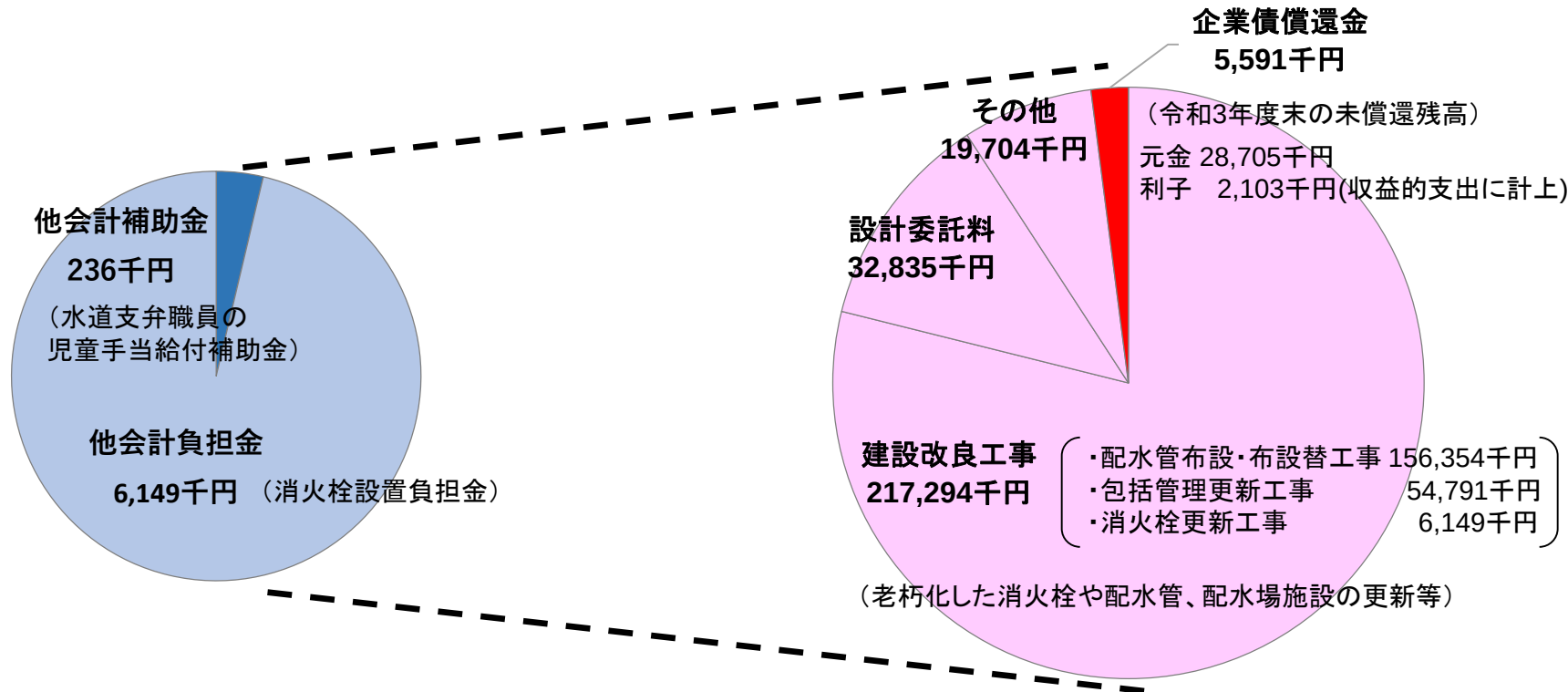
2 経営状況について(投資・財務) 【水道事業】

資本的収入および支出(税込み)

※施設の構築等(4条予算)

【資本的収入】6,385千円

【資本的支出】275,424千円



資本的収入－資本的支出＝△269,039千円

※不足額は内部留保資金等で補てん



2 経営状況について(投資・財務) 【水道事業】

■内部留保資金について

内部留保資金とは

減価償却費など、実際に現金の支出がない費用計上によって生じた資金。
この資金は、主に施設整備の費用や、これまでに行った施設整備のために
借り入れた借金の元金返済の財源として使われる。

この内部留保資金を財源として整備された施設の費用は、その翌年から減
価償却費として費用に計上され、また内部留保資金として積み立てられる。

令和3年度末の内部留保資金など

ア 現金預金＋未収金＋前払金など	3,592百万円
イ 修繕引当金・未払金・建設改良積立金	
当年度末未処分利益剰余金など	885百万円

補てん財源として使用可能額

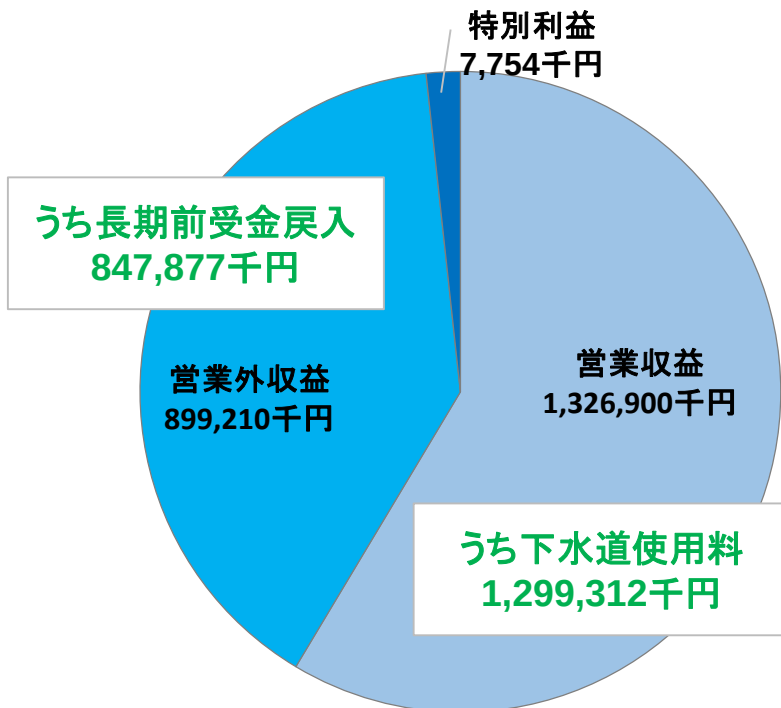
① 内部留保資金（ア－イ）	2,707百万円
② 積立金（減債積立金・建設改良積立金）	60百万円
③ 当年度純利益（繰越利益剰余金を含む）	326百万円
計（①＋②＋③）	3,093百万円

2 経営状況について(決算) 【下水道事業】

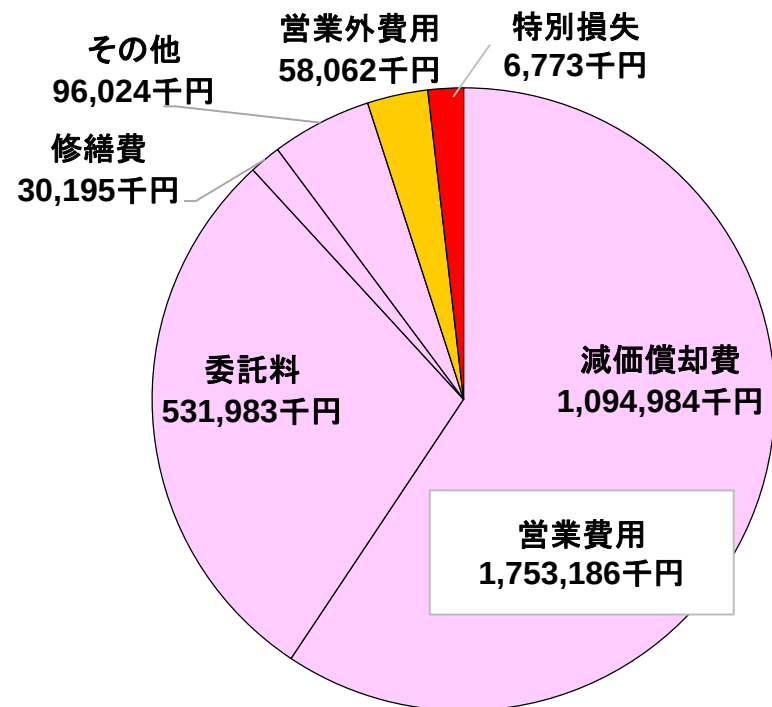
収益的収入および支出(損益計算書:税抜き)

※施設の維持や運転、包括料金委託などの費用(3条予算)

【収益的収入】2,233,864千円



【収益的支出】1,818,021千円



収益的収入－収益的支出＝415,843千円(当年度純利益)

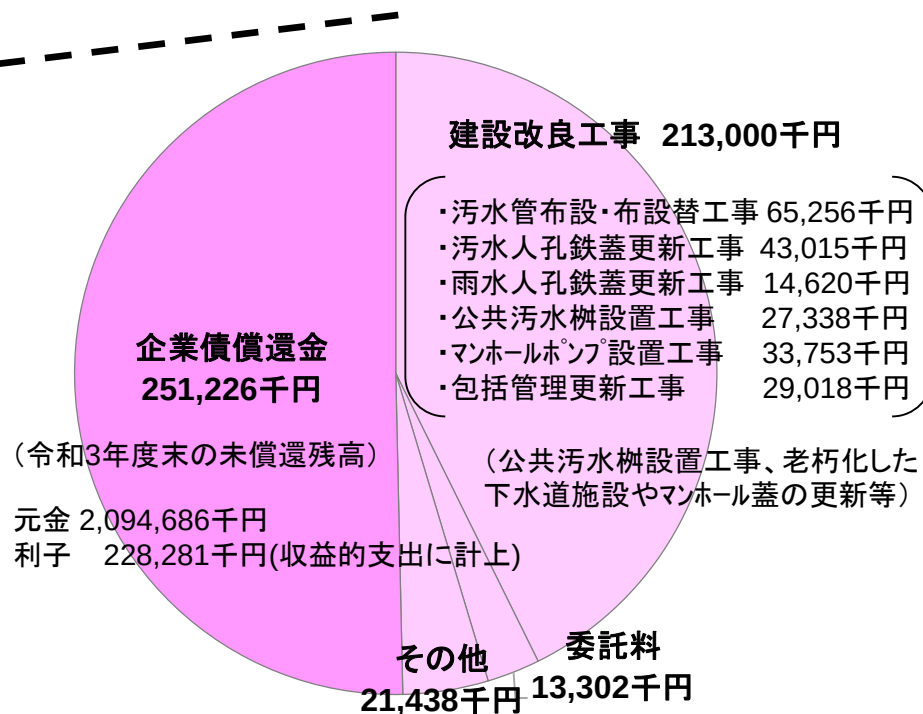
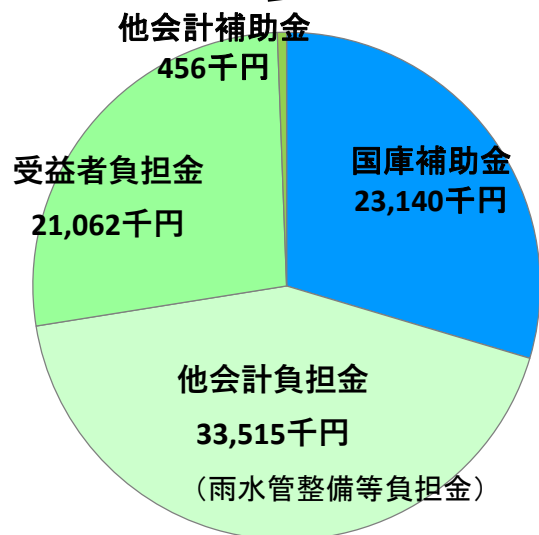
2 経営状況について(投資・財務) 【下水道事業】

資本的収入および支出(税込み)

※施設の構築等(4条予算)

【資本的収入】78,173千円

【資本的支出】498,966千円



資本的収入－資本的支出＝△420,793千円

※不足額は内部留保資金等で補てん



2 経営状況について(投資・財務) 【下水道事業】

■内部留保資金について

令和3年度末の内部留保資金など

ア 現金預金＋未収金＋前払金など		5,427百万円
イ 修繕引当金・未払金・減債積立金		
当年度末未処分利益剰余金など		1,100百万円

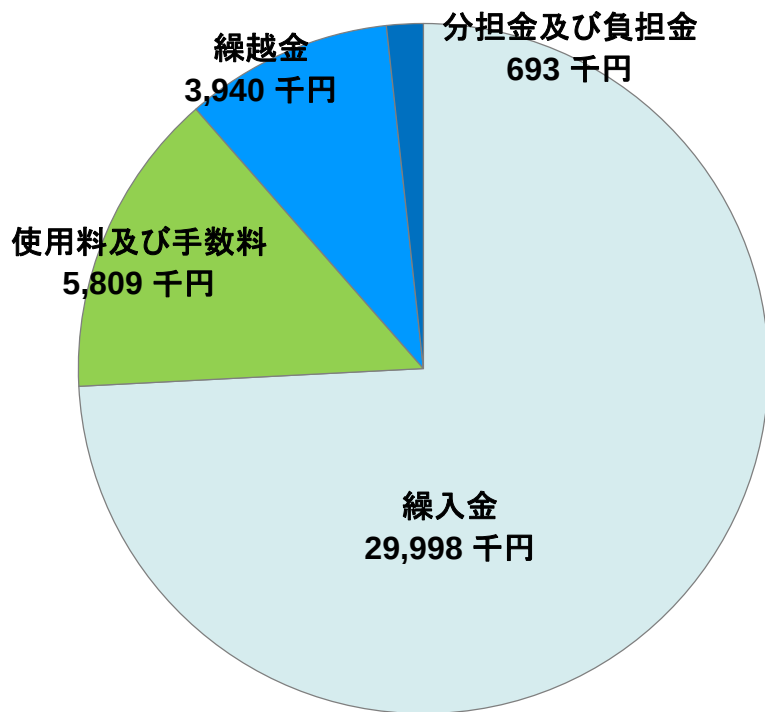
補てん財源として使用可能額

① 内部留保資金（ア－イ）		4,327百万円
② 積立金(減債積立金)		340百万円
③ 当年度純利益(繰越利益剰余金を含む)		468百万円
計 (①＋②＋③)		5,135百万円

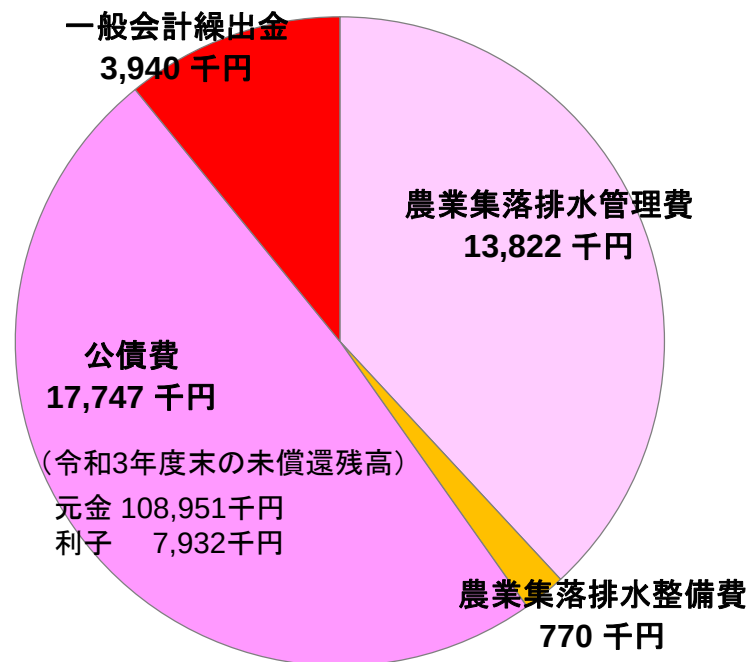
2 経営状況について(決算) 【農業集落排水事業】

歳入および歳出(特別会計:税込み)

【歳入】40,440千円



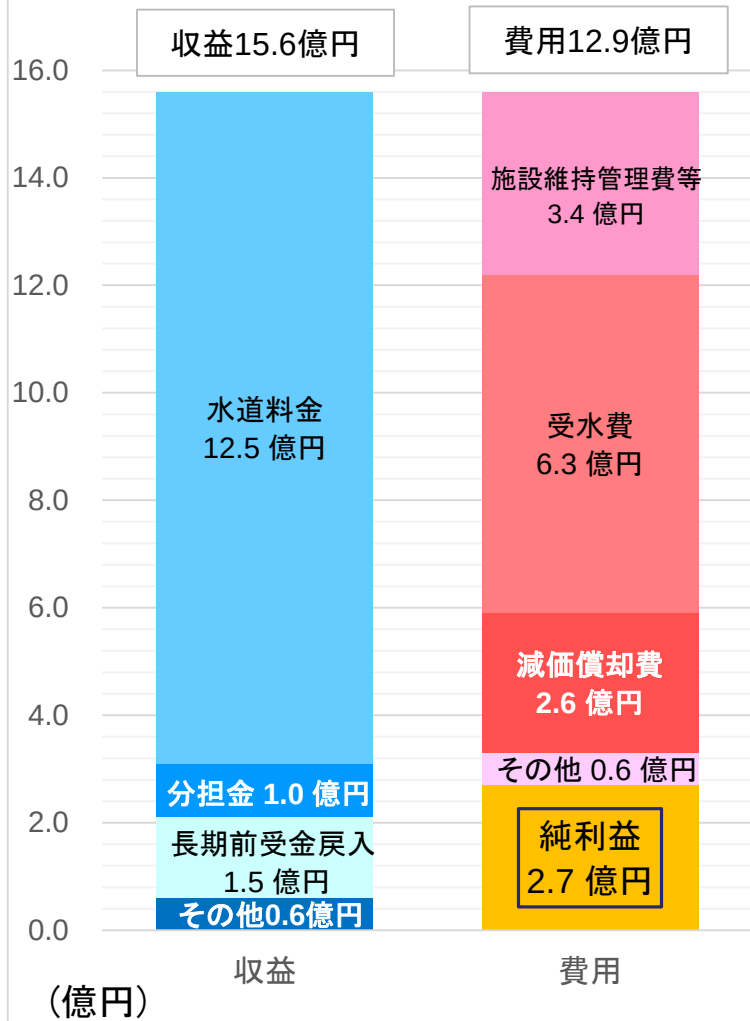
【歳出】36,279千円



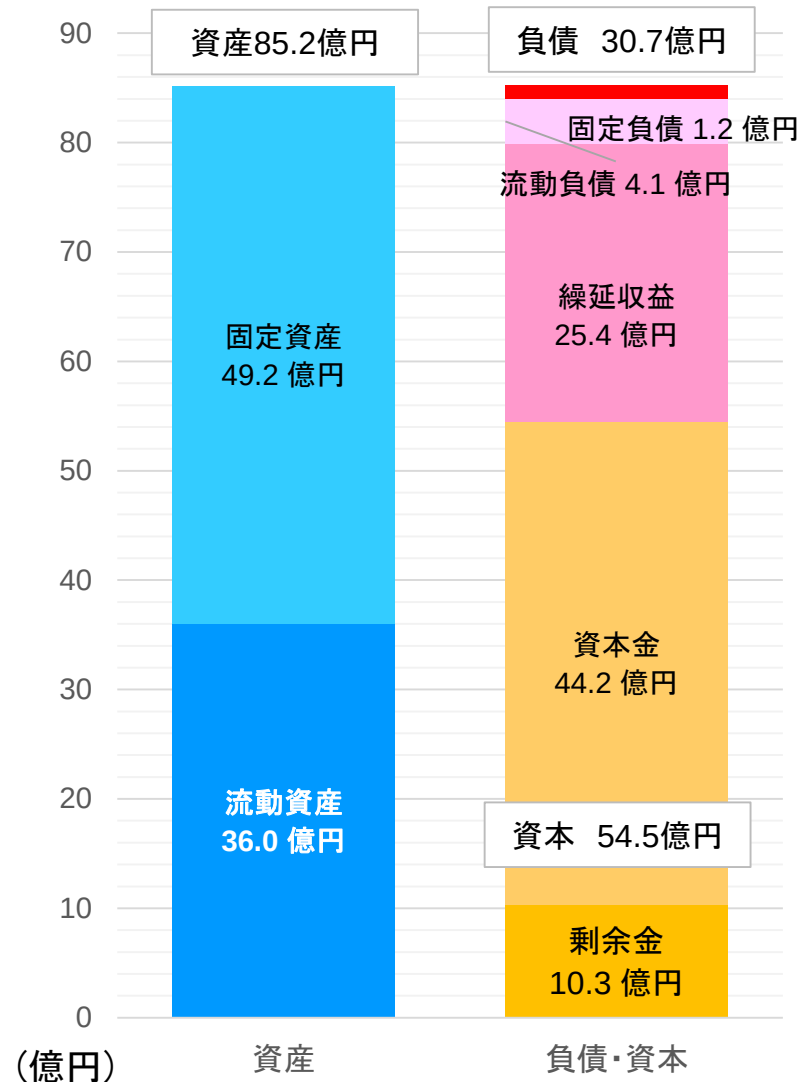
歳入－歳出＝4,161千円(実質収支額)

2 経営状況について 【水道事業】

損益計算(税抜き)



貸借対照表(税抜き)





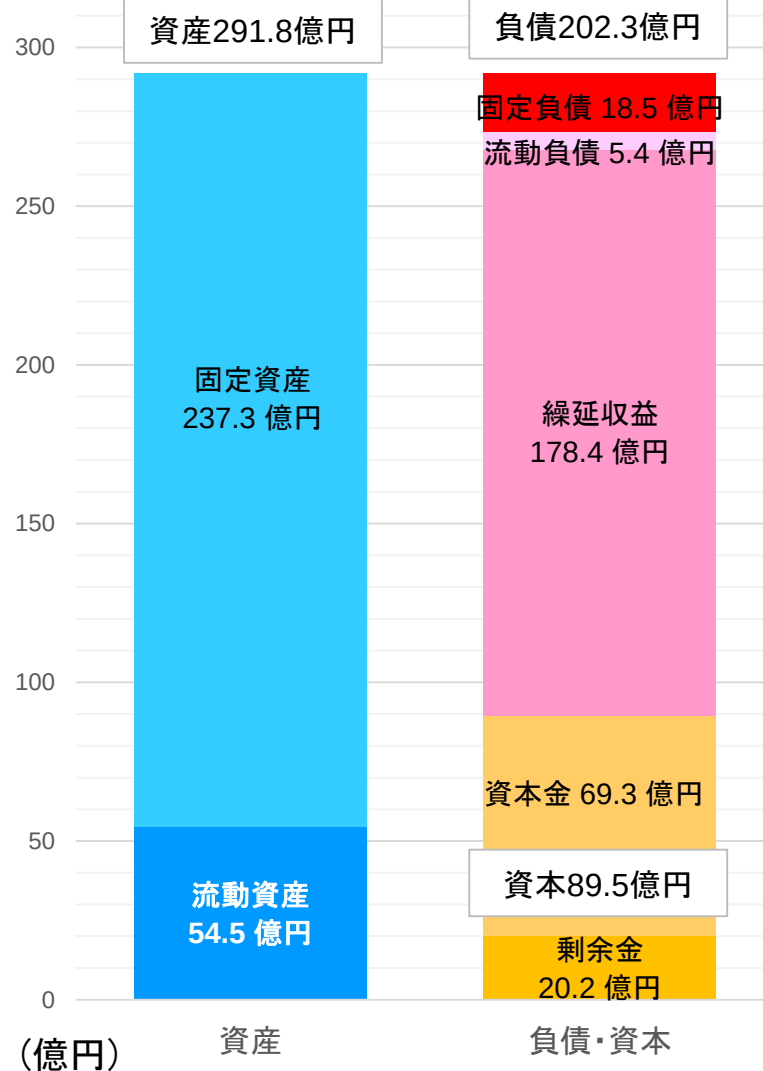
きらめき守田 夢彩都

2 経営状況について 【下水道事業】

損益計算(税抜き)



貸借対照表(税抜き)





2 経営状況について(経営成績) 【水道事業】

1. 経常収支比率

給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを示す指標であり、単年度の収支が黒字であるためには、100%以上となっている必要がある。

$$\text{経常収支比率} = \text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$$

2. 分析

項目	R2	R3	差
経常収支比率 (%)	114.05	122.75	+8.70

経常収支比率は昨年度より増加し、122.75%となった。主に昨年度はコロナウイルス感染症対策として水道料金の基本料金を6箇月減免(減免額は税抜80,476千円)したことに伴い収益が減少していたが、今年度は例年通り給水収益を計上できたことが挙げられる。

(基本料金を減免しなかった場合のR2年度の経常収支比率は120.41%となる。)



きらめき守り 夢彩都

2 経営状況について(経営分析) 【水道事業】

1. 供給単価 (水1m³をいくらで売っているかを示す)

有収水量1m³当たりどの位の収益を得ているかを表したものの。

給水収益÷年間総有収水量

2. 給水原価 (水1m³をいくらで作っているかを示す)

有収水量1m³当たりどの位の費用を要しているかを表したものの。

経常費用－(長期前受金戻入＋受託事業費＋材料売却原価)

年間総有収水量

3. 分析

項目	R2	R3	差
1. 供給単価 (円／m ³) ①	170.67	182.48	＋11.81
2. 給水原価 (円／m ³) ②	155.13	157.04	＋1.91
3. 料金回収率 (%) ①／②	110.02	116.20	＋6.18

供給単価は、基本料金を6箇月減免していた昨年度に比べ大きく増加した。

(R2年度で基本料金を減免しなかった場合の供給単価は182.47円／m³となる。)

給水原価は、経常費用は昨年度と比べ大きな変動はなく、ほぼ横ばいとなった。

2 経営状況について(予算対比1) 【水道事業】

(単位: 千円、税込)

R3年度	予算	決算	差異
水道事業収益	1,637,039	1,700,204	63,165
営業収益	1,390,657	1,430,278	39,621
営業外収益	245,198	267,934	22,736
特別利益	1,184	1,992	808
水道事業費用	1,497,181	1,400,665	△96,516
営業費用	1,399,022	1,356,021	△43,001
営業外費用	47,317	26,941	△20,376
特別損失	47,842	17,703	△30,139
予備費	3,000	0	△3,000
当年度純利益	139,858	299,539	159,681

令和3年度の実績は、予算との比較で、収益は主に給水収益や分担金収入の増加等により63,165千円の増、費用では主に修繕費や井戸撤去工事費等の減少により96,516千円の減となり、差し引き159,681千円の利益増となった。

2 経営状況について(予算対比2) 【水道事業】

(単位:千円、税込)

R3年度	予算	決算	差異
資本的収入	15,241	6,385	△8,856
他会計負担金	15,004	6,149	△8,855
他会計補助金	236	236	0
工事負担金	1	0	△1
資本的支出	543,096	275,424	△267,672
建設改良費	537,503	269,833	△267,670
企業債償還金	5,592	5,591	△1
工事負担金返還金	1	0	△1
収支不足額	△527,855	△269,039	258,816
現金預金残高	3,084,786	3,358,546	273,760

令和3年度の実績は、予算との比較で、資本的収入は消火栓設置負担金の減等により8,856千円の減、資本的支出は、配水管布設替工事費が年度内に完了しなかったこと等もあり267,672千円の減となった。

2 経営状況について(計画対比1) 【水道事業】

(単位:千円、税抜)

R3年度	経営戦略	決算	差異
水道事業収益	1,522,146	1,560,881	38,735
営業収益	1,305,789	1,301,430	△4,359
営業外収益	216,357	257,459	41,102
特別利益	0	1,992	1,992
水道事業費用	1,440,399	1,286,231	△154,168
営業費用	1,382,502	1,263,896	△118,606
営業外費用	1,188	6,095	4,907
特別損失	56,709	16,240	△40,469
当年度純利益	81,747	274,650	192,903

令和3年度の実績は、経営戦略との比較で、収益は主に分担金収入の増加等により38,735千円の増、費用では主に修繕費や除却費の減少等により154,168千円の減となり、差し引き192,903千円の利益増となった。

2 経営状況について(計画対比2) 【水道事業】

(単位:千円、税込)

R3年度	経営戦略	決算	差異
資本的収入	240	6,385	6,145
他会計負担金	0	6,149	6,149
他会計補助金	240	236	△4
工事負担金	0	0	0
資本的支出	435,414	275,424	△159,990
建設改良費	429,823	269,833	△159,990
企業債償還金	5,591	5,591	0
工事負担金返還金	0	0	0
収支不足額	△435,174	△269,039	166,135
現金預金残高	2,992,532	3,358,546	366,014

令和3年度の実績は、経営戦略との比較で、資本的収入は消火栓設置負担金の増等により6,145千円の増、資本的支出は、配水管布設替工事費を翌年度に繰越(222,394千円)したこと等により159,990千円の減となった。将来の建設改良工事の財源となる内部留保資金(主に現金預金残高)は、366,014千円の増となった。



2 経営状況について(経営分析) 【下水道事業】

1. 経営成績

項目	R2	R3	差
経常収支比率 (%)	114.80	122.91	+8.11

経常収支比率が昨年度よりも増加した理由は、主に昨年度はコロナウイルス感染症対策として下水道使用料の基本料金を6箇月減免(税抜79,496千円)したことに伴い、営業収益が減少していたことが挙げられる。(基本料金を減免しなかった場合のR2年度の経常収支比率は119.09%となる。)

2. 使用料単価と汚水処理原価

項目	R2	R3	差
使用料単価 (円/m ³) ①	118.86	126.45	+7.59
汚水処理原価 (円/m ³) ②	93.23	91.34	△1.89
経費回収率 (%) ①/②	127.49	138.44	+10.95

使用料単価は、基本料金を6箇月減免した昨年度に比べ増加した。
(R2年度で基本料金を減免しなかった場合の使用料単価は126.58円/m³となる。)
汚水処理原価は、昨年度と比べて大きな変動はなく、ほぼ横ばいとなった。

2 経営状況について(予算対比1) 【下水道事業】

(単位:千円、税込)

R3年度	予算	決算	差異
下水道事業収益	2,363,197	2,365,300	2,103
営業収益	1,433,593	1,457,762	24,169
営業外収益	921,846	899,784	△22,062
特別利益	7,758	7,754	△4
下水道事業費用	2,205,661	1,933,628	△272,033
営業費用	2,067,303	1,811,472	△255,831
営業外費用	127,670	114,706	△12,964
特別損失	7,688	7,450	△238
予備費	3,000	0	△3,000
当年度純利益	157,536	431,672	274,136

令和3年度の実績は、予算との比較で、収益は主に下水道使用料の増加等により2,103千円の増、費用では主に委託料や修繕費の減少等により272,033千円の減となり、差し引き274,136千円の利益増となった。



2 経営状況について(予算対比2) 【下水道事業】

(単位:千円、税込)

R3年度	予算	決算	差異
資本的収入	186,244	78,173	△108,071
国庫補助金	128,400	23,140	△105,260
他会計負担金	44,355	33,515	△10,840
受益者負担金等	13,033	21,062	8,029
他会計補助金	456	456	0
資本的支出	894,492	498,966	△395,526
建設改良費	643,265	247,740	△395,525
企業債償還金	251,227	251,226	△1
収支不足額	△708,248	△420,793	287,455
現金預金残高	4,588,555	5,012,741	424,186

令和3年度の実績は、予算との比較で、資本的収入は国庫補助金の減少等により108,071千円の減、資本的支出は、浄化センター改築更新事業が繰越しになったこと等もあり395,526千円の減となった。資本的収入から資本的支出を差し引いた収支不足額は287,455千円の減となった。



2 経営状況について(計画対比1) 【下水道事業】

(単位:千円、税抜)

R3年度	経営戦略	決算	差異
下水道事業収益	2,290,473	2,233,864	△56,609
営業収益	1,469,731	1,326,900	△142,831
営業外収益	820,742	899,210	78,468
特別利益	0	7,754	7,754
下水道事業費用	1,845,360	1,818,021	△27,339
営業費用	1,793,909	1,753,186	△40,723
営業外費用	51,151	58,062	6,911
特別損失	300	6,773	6,473
当年度純利益	445,113	415,843	△29,270

令和3年度の実績は、経営戦略との比較で、収益は主に下水道使用料の減少等により56,609千円の減、費用では主に修繕費の減少等により27,339千円の減となり、差し引き29,270千円の利益減となった。



2 経営状況について(計画対比2) 【下水道事業】

(単位:千円、税込)

R3年度	経営戦略	決算	差異
資本的収入	283,171	78,173	△204,998
国庫補助金	112,376	23,140	△89,236
他会計負担金	24,751	33,515	8,764
受益者負担金	12,674	21,062	8,388
他会計補助金	120	456	336
一般貸付金返還金	133,250	0	△133,250
資本的支出	618,479	498,966	△119,513
建設改良費	367,253	247,740	△119,513
企業債償還金	251,226	251,226	0
収支不足額	△335,308	△420,793	△85,485
現金預金残高	4,974,760	5,012,741	37,981

令和3年度の実績は、経営戦略との比較で、資本的収入は国庫補助金の減少等により204,998千円の減、資本的支出は、建設改良費を翌年度に繰越(348,892千円)したこと等により119,513千円の減となった。将来の建設改良工事の財源となる内部留保資金(主に現金預金残高)は、37,981千円の増となった。



2 経営状況について(資金不足比率)

資金不足比率

事業規模に対する資金の不足額の比率で、経営状態の悪化の度合いを示す指標。

- 水道・下水道事業 $(\text{流動負債} - \text{流動資産}) \div (\text{営業収益} - \text{受託事業収益}) \times 100$
- 農業集落排水事業 $(\text{歳出} - \text{歳入}) \div (\text{使用料} \cdot \text{手数料} - \text{受託事業収入}) \times 100$

項目		R2	R3	差
水道事業	(%)	△258.91	△252.96	+5.95
下水道事業	(%)	△375.86	△372.56	+3.30
農業集落排水事業	(%)	△72.37	△71.63	+0.74

水道・下水道事業ともに資産が負債を上回っている。

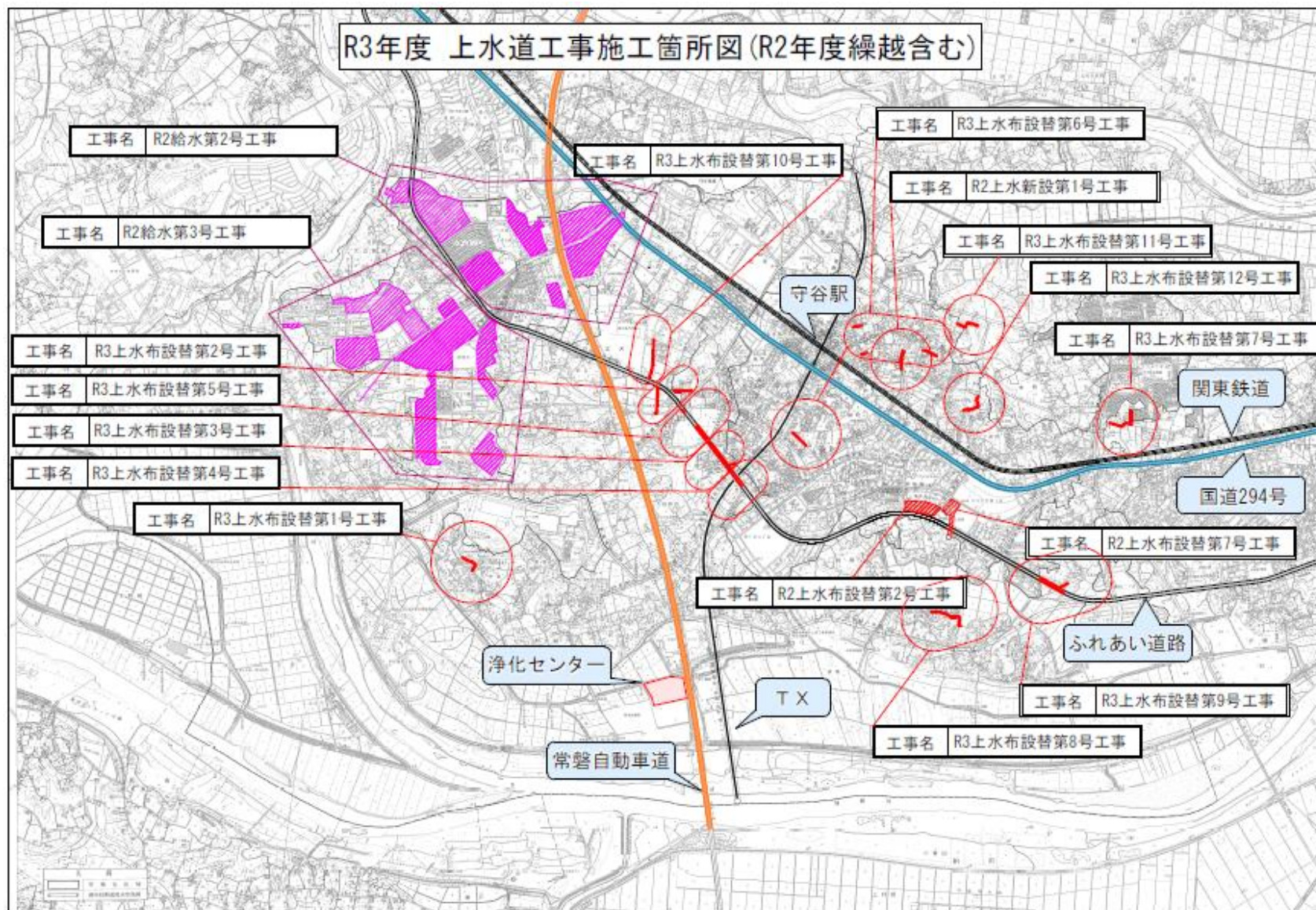
農業集落排水事業は、歳入が歳出を上回っている。

したがって、全ての事業でマイナスとなり、資金不足額はない。



きらめき守り 夢彩都

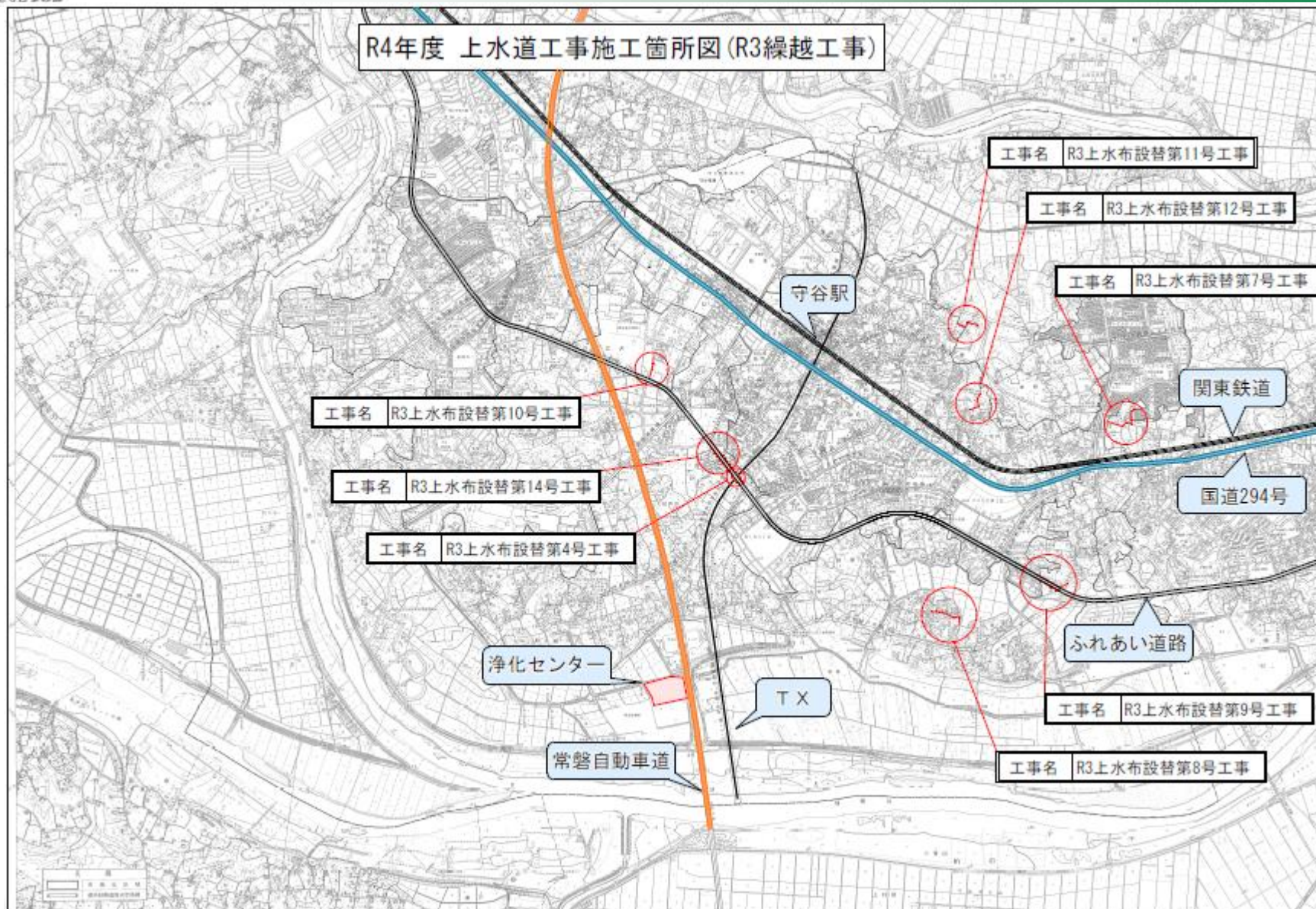
3 工事実績について【水道事業】 年度内完了分





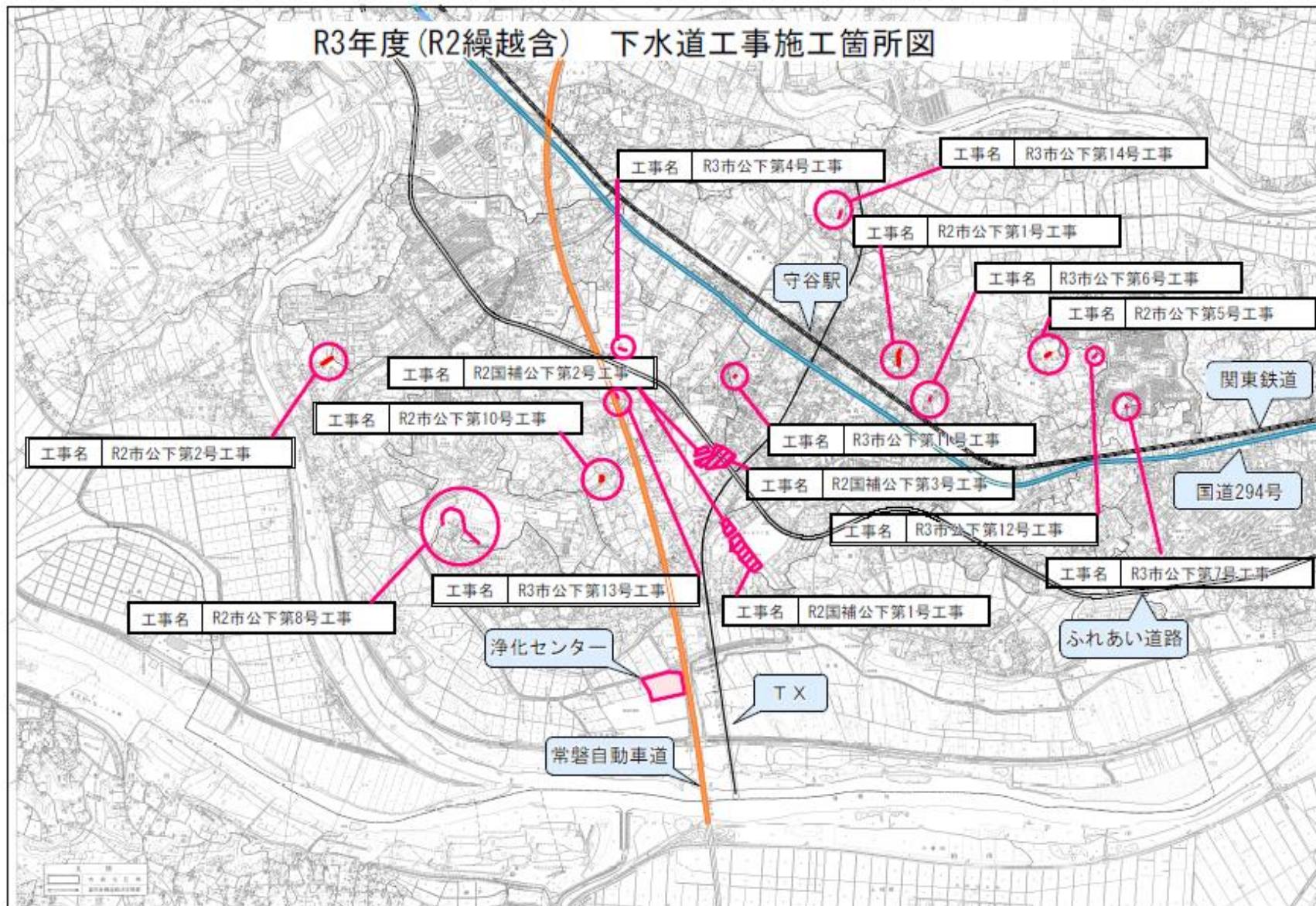
3 工事实績について【水道事業】 翌年度繰越分

きらめき守谷 夢彩都





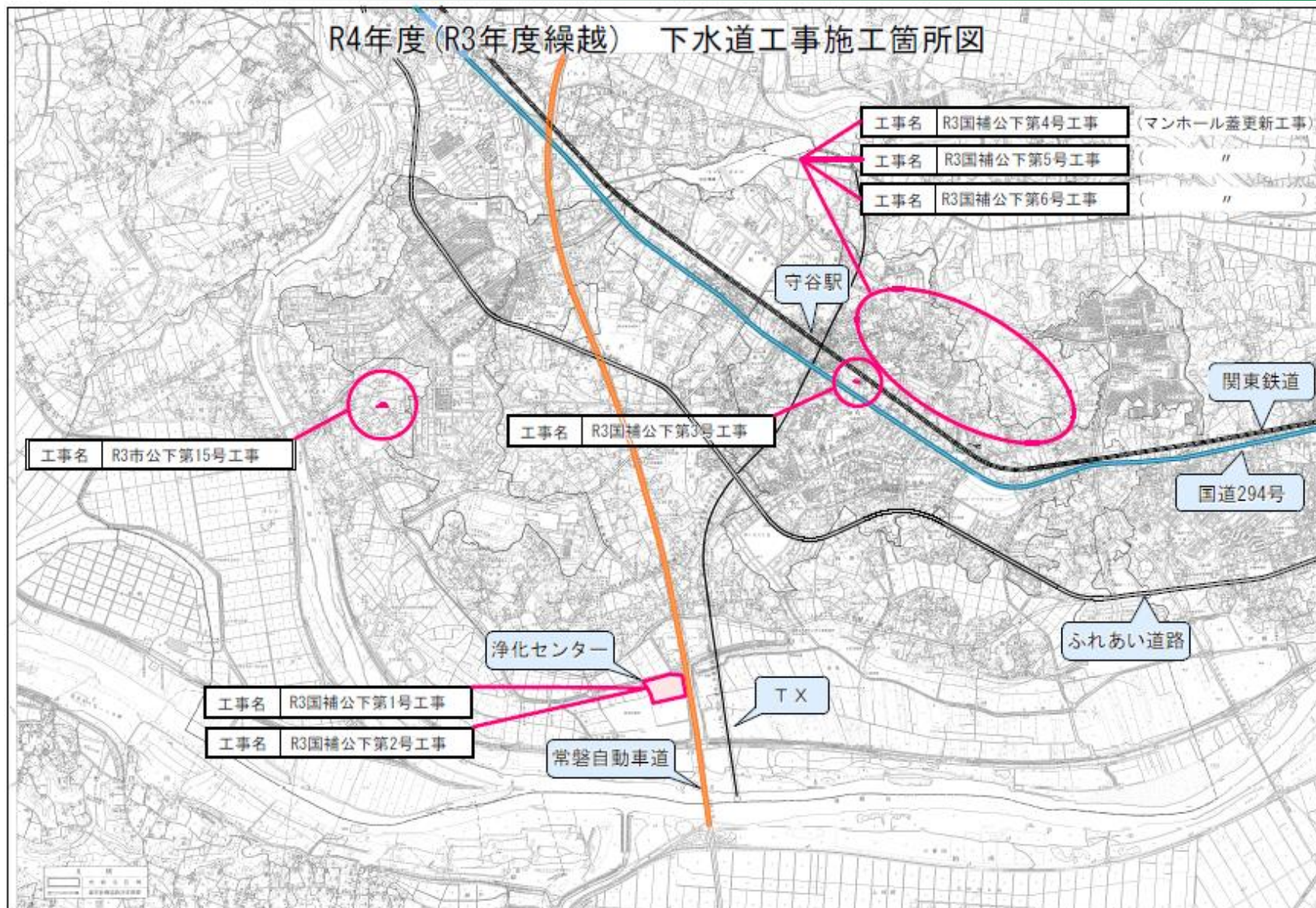
3 工事实績について【下水道事業】 年度内完了分





3 工事实績について【下水道事業】 翌年度繰越分

きらめき守谷 夢彩都



報告事項(2)

令和4年度 事業計画について



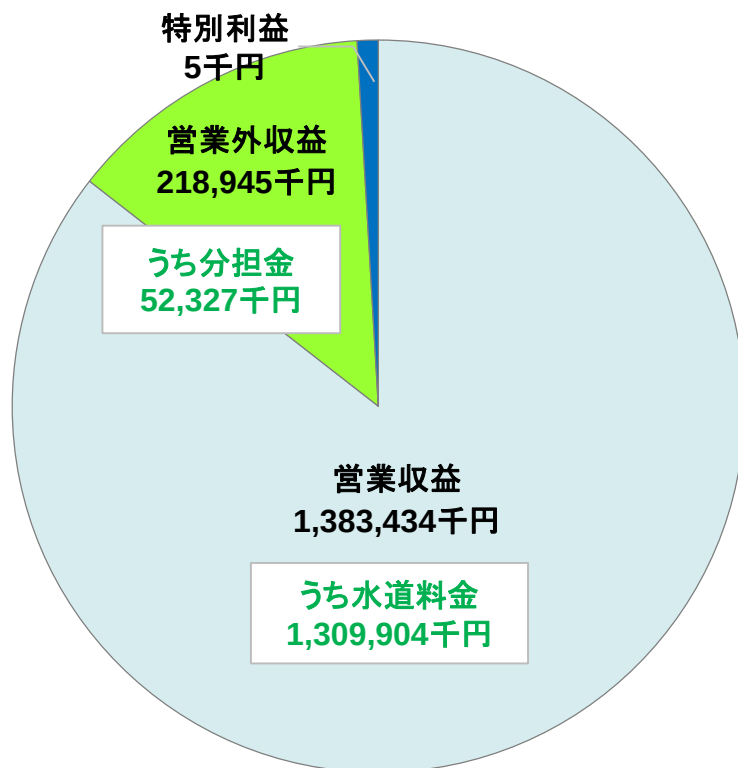
ならめき守り 夢彩都

1 予算について【水道事業】

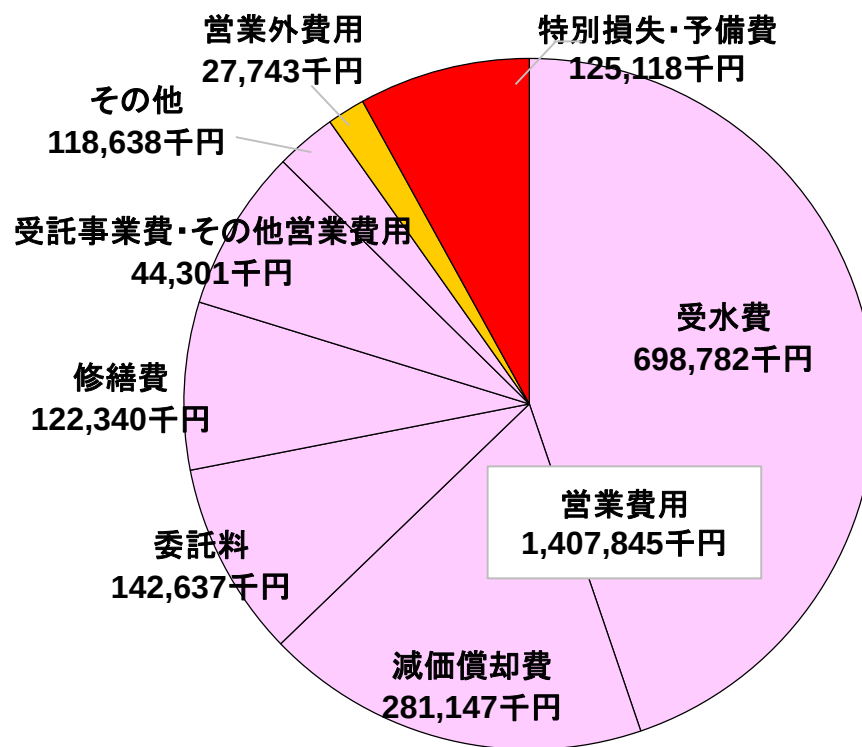
収益的収入および支出(税込み)

※施設の維持や運転、包括料金委託などの費用(3条予算)

【収益的収入】1,602,384千円



【収益的支出】1,560,706千円



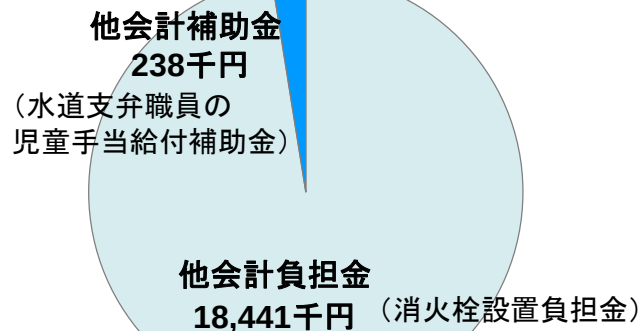
収益的収入－収益的支出＝41,678千円

1 予算について【水道事業】

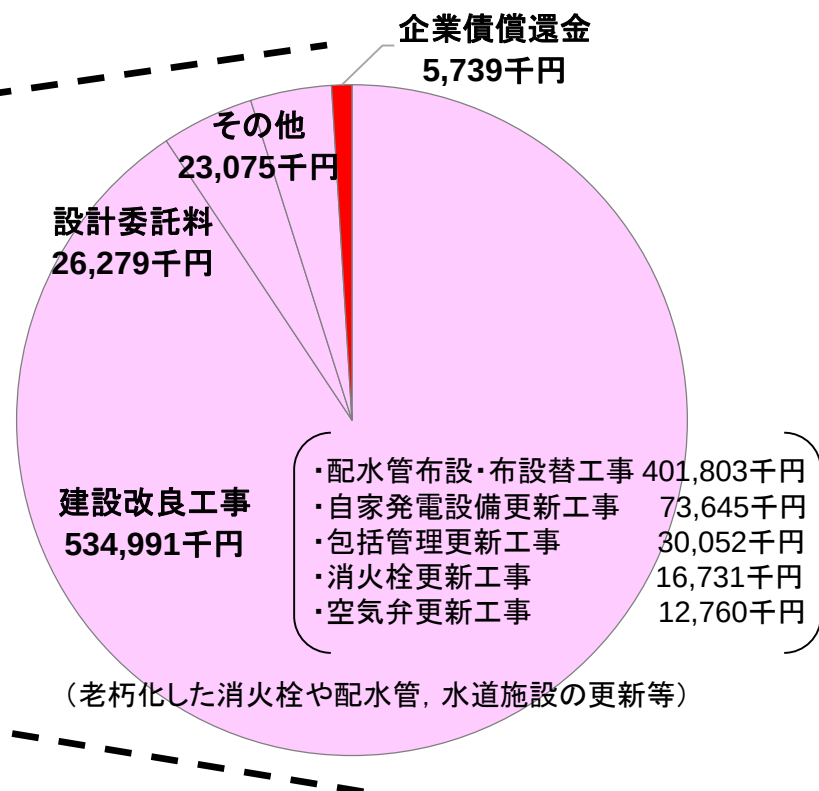
資本的収入および支出(税込み)

※施設の構築等(4条予算)

【資本的収入】18,679千円



【資本的支出】590,084千円



資本的収入－資本的支出＝△571,405千円

※不足額は内部留保資金等で補てん

2 経営状況について(計画対比1) 【水道事業】

(単位:千円、税抜)

R4年度	経営戦略	予算	差異
水道事業収益	1,525,842	1,473,960	△51,882
営業収益	1,311,587	1,260,316	△51,271
営業外収益	214,255	213,639	△616
特別利益	0	5	5
水道事業費用	1,465,137	1,435,304	△29,833
営業費用	1,376,617	1,312,535	△64,082
営業外費用	1,040	9,749	8,709
特別損失	87,480	113,020	25,540
当年度純利益	60,705	38,656	△22,049

令和4年度の予算は、経営戦略との比較で、収益は主に給水収益の減少等により51,882千円の減、費用では主に資産減耗費の減少等により29,833千円の減となり、差し引き22,049千円の利益減となった。

2 経営状況について(計画対比2) 【水道事業】

(単位:千円、税込)

R4年度	経営戦略	予算	差異
資本的収入	240	18,679	18,439
他会計負担金	0	18,441	18,441
他会計補助金	240	238	△2
工事負担金	0	0	0
資本的支出	437,062	590,084	153,022
建設改良費	431,323	584,345	153,022
企業債償還金	5,739	5,739	0
収支不足額	△436,822	△571,405	△134,583
現金預金残高	2,772,446	3,053,203	280,757

令和4年度の予算は、経営戦略との比較で、資本的収入は消火栓設置負担金の増加等により18,439千円の増、資本的支出は、配水管整備工事の増加等により153,022千円の増となった。内部留保資金は、過去の純利益が経営戦略よりも多かったため、280,757千円の増となった。

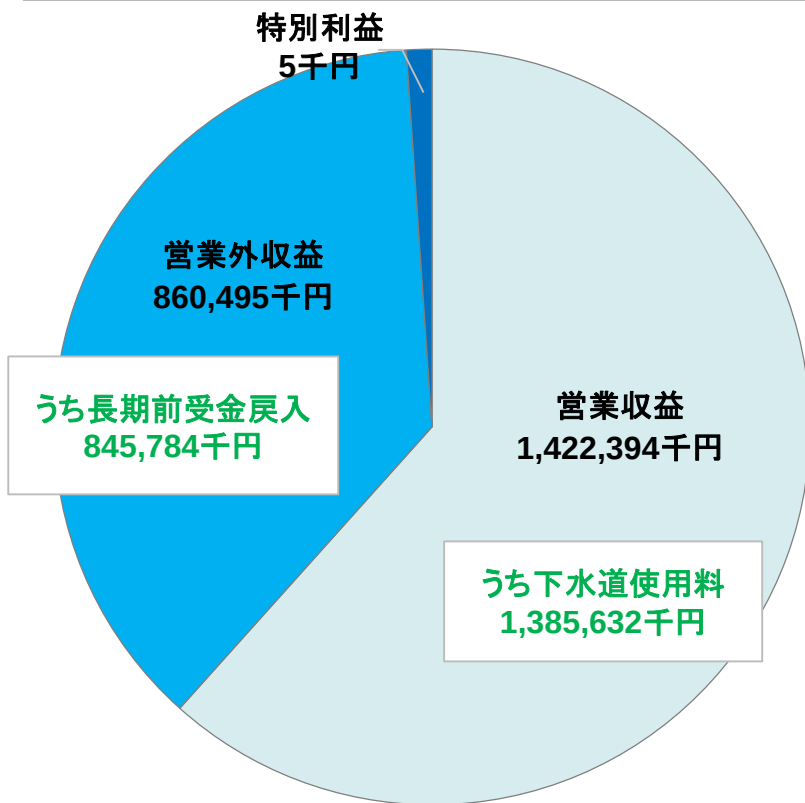


1 予算について【下水道事業】

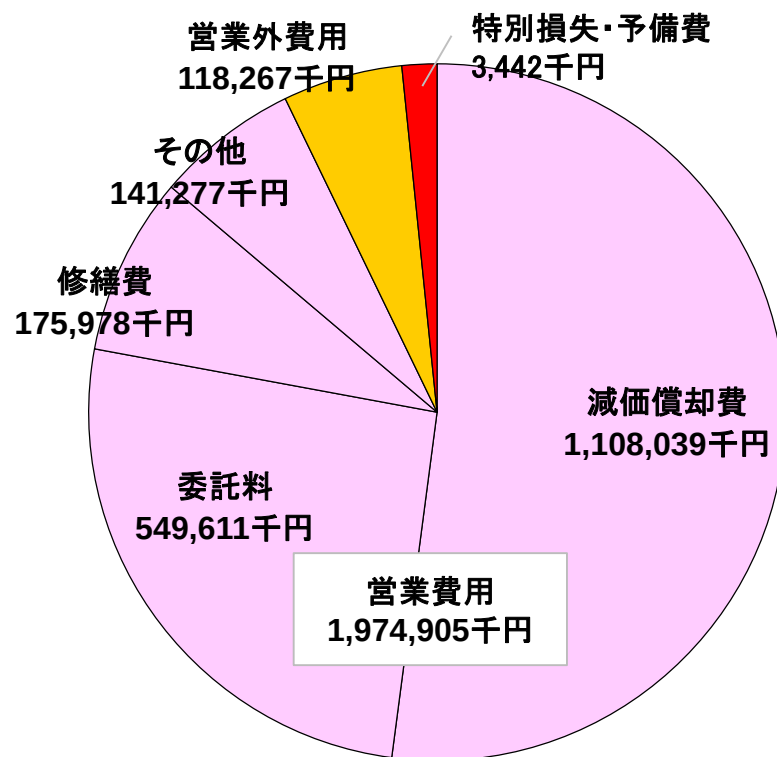
収益的収入および支出(税込み)

※施設の維持や運転、包括料金委託などの費用(3条予算)

【収益的収入】2,282,894千円



【収益的支出】2,096,614千円



収益的収入－収益的支出＝186,280千円



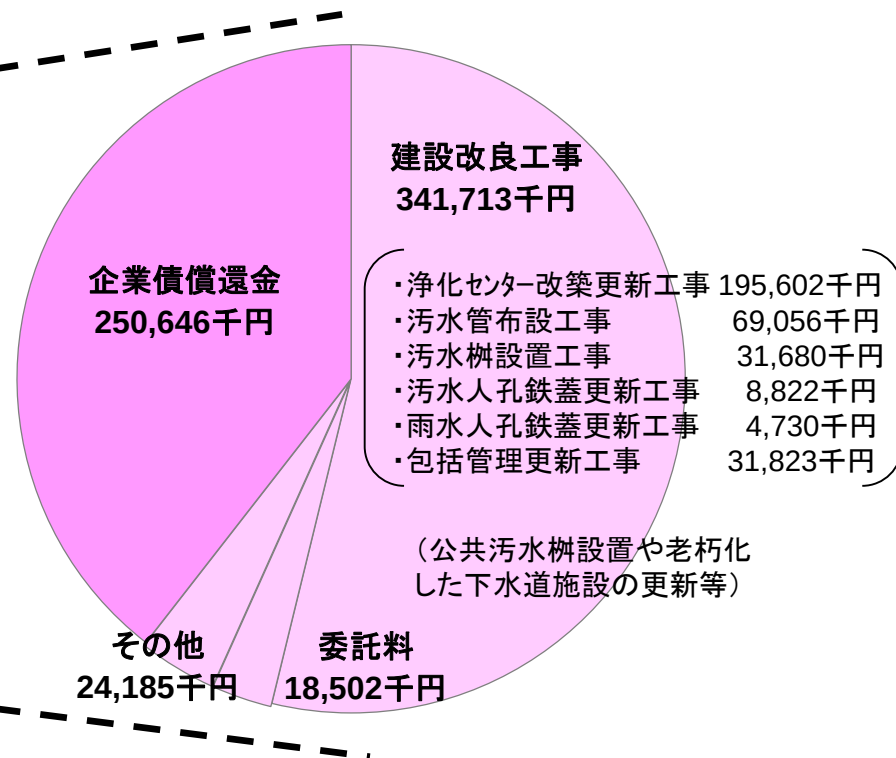
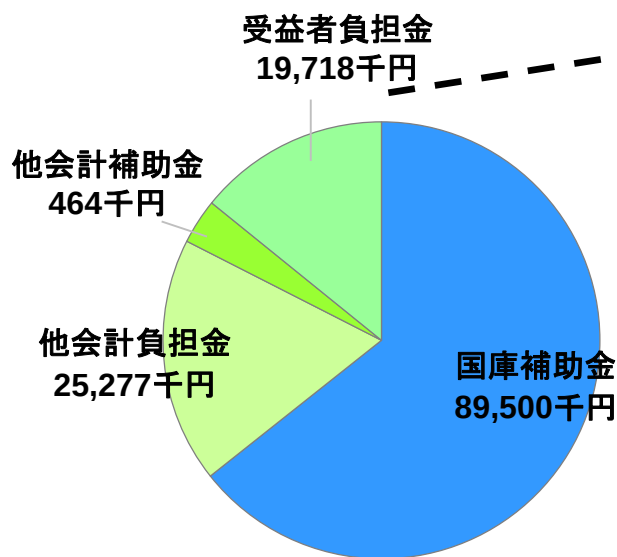
1 予算について【下水道事業】

資本的収入および支出(税込み)

※施設の構築等(4条予算)

【資本的収入】134,959千円

【資本的支出】635,046千円



資本的収入－資本的支出＝△500,087千円

※不足額は内部留保資金等で補てん

2 経営状況について(計画対比1) 【下水道事業】

(単位:千円、税抜)

R4年度	経営戦略	予算	差異
下水道事業収益	2,301,467	2,155,027	△146,440
営業収益	1,477,547	1,295,006	△182,541
営業外収益	823,920	860,016	36,096
特別利益	0	5	5
下水道事業費用	1,844,906	1,954,193	109,287
営業費用	1,799,636	1,905,663	106,027
営業外費用	44,970	48,128	3,158
特別損失	300	402	102
当年度純利益	456,561	200,834	△255,727

令和4年度の予算は、経営戦略との比較で、収益は主に下水道使用料の減少等により146,440千円の減、費用では主に委託料や修繕費の増加等により109,287千円の増となり、差し引き255,727千円の利益減となった。

2 経営状況について(計画対比2) 【下水道事業】

(単位:千円、税込)

R4年度	経営戦略	予算	差異
資本的収入	155,395	134,959	△20,436
他会計負担金	25,146	25,277	131
他会計補助金	120	464	344
国庫補助金	117,859	89,500	△28,359
受益者負担金	12,270	19,718	7,448
資本的支出	636,599	635,046	△1,553
建設改良費	385,954	384,400	△1,554
企業債償還金	250,645	250,646	1
収支不足額	△481,204	△500,087	△18,883
現金預金残高	5,227,994	4,603,611	△624,383

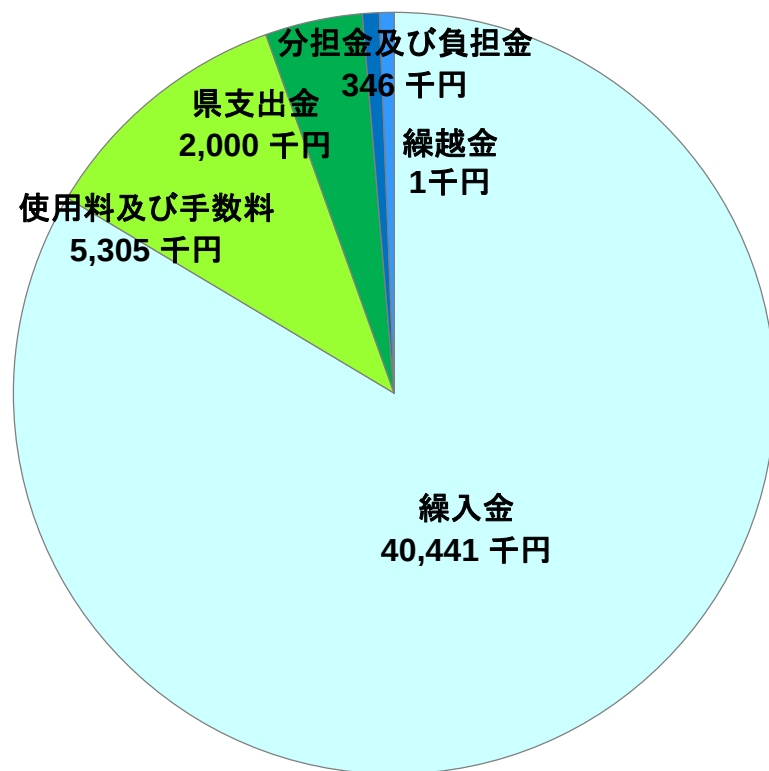
令和4年度の予算は、経営戦略との比較で、資本的収入は国庫補助金の減少等により20,436千円の減、資本的支出は、ほぼ経営戦略の見通しと同額となり、1,553千円の減となった。内部留保資金は、624,383千円の減となった。



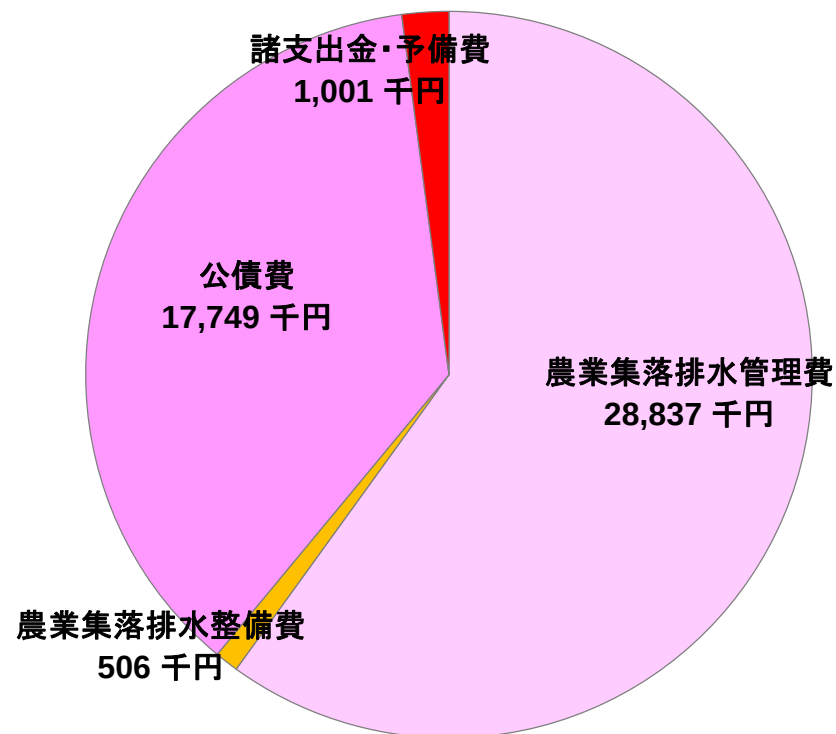
1 予算について 【農業集落排水事業】

歳入および歳出(特別会計:税込み)

【歳入】48,093千円



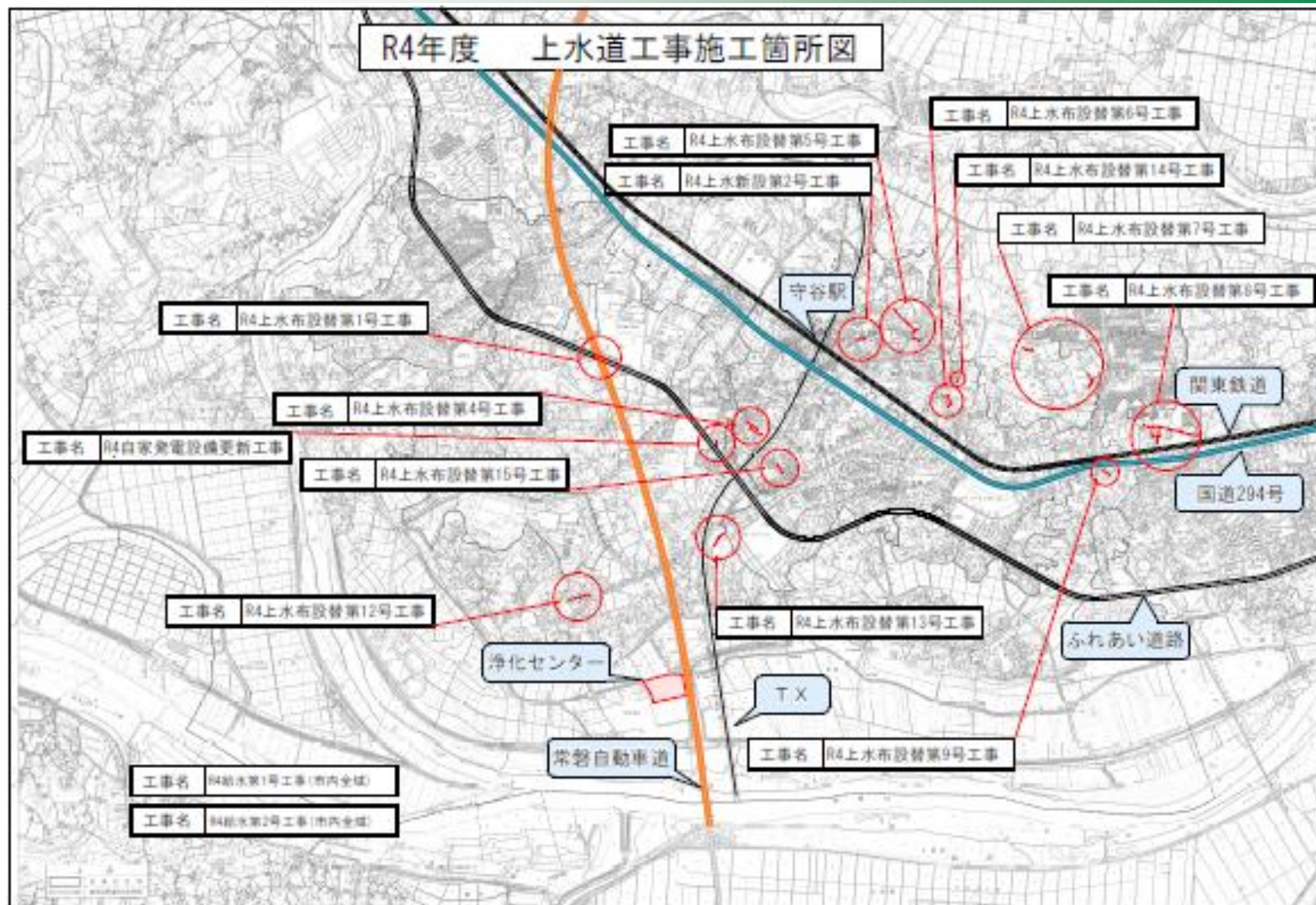
【歳出】48,093千円



歳入－歳出＝0円



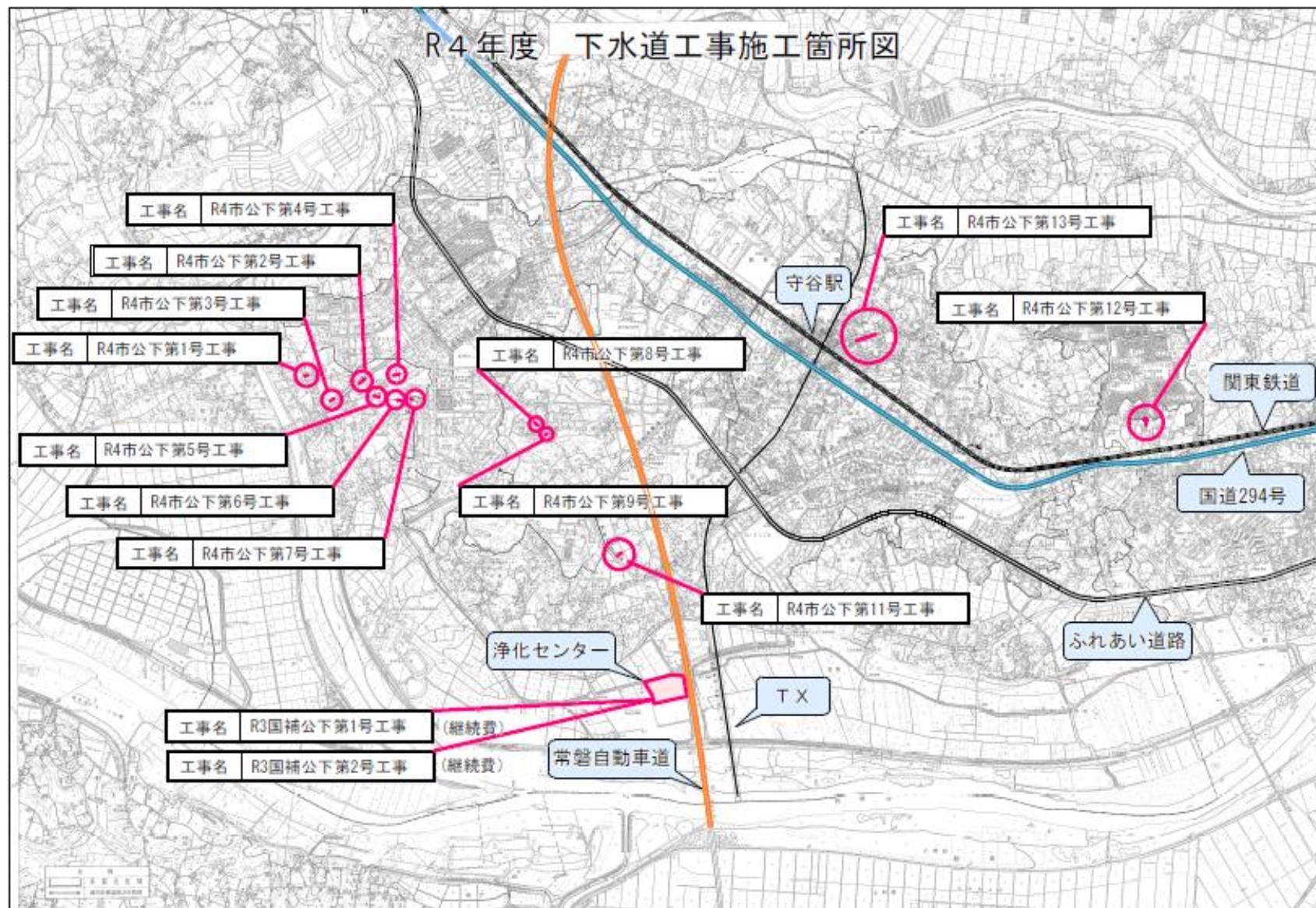
3 工事計画について【水道事業】





きらめき守谷 夢彩郡

3 工事計画について【下水道事業】



報告事項(3)

次期守谷市上下水道施設管理等
包括業務委託について

包括的民間委託の拡大

上下水道課の組織体制
執行体制の現状
包括的民間委託の現状
包括的民間委託の拡大

■上下水道課の組織体制

管理職	(3人)	所長、課長、補佐
業務グループ	(6人)	給水装置、分担金、水道料金 排水設備、受益者負担金、下水道使用料
経営グループ	(5人※)	庶務、予算決算、資産管理、経営
事業グループ	(7人)	上下水道事業の計画・企画 上下水道施設の計画・設計・施工 上下水道施設の維持管理・台帳管理 水質検査・管理、上下水道施設の運転管理

計 21人(※うち1人は休職中)

■執行体制の現状

技術職は、水道で2人、下水道で5人(うち1人は管理職)。
農集を含む下水道施設の計画や工事、維持管理を実質4人で対応。

■課題

更新需要の増加と財源の不均衡、執行体制への懸念(ヒト・モノ・カネ)

- ・年度間でバラつく投資額
- ・設計積算担当職員の不足



更新事業の限界

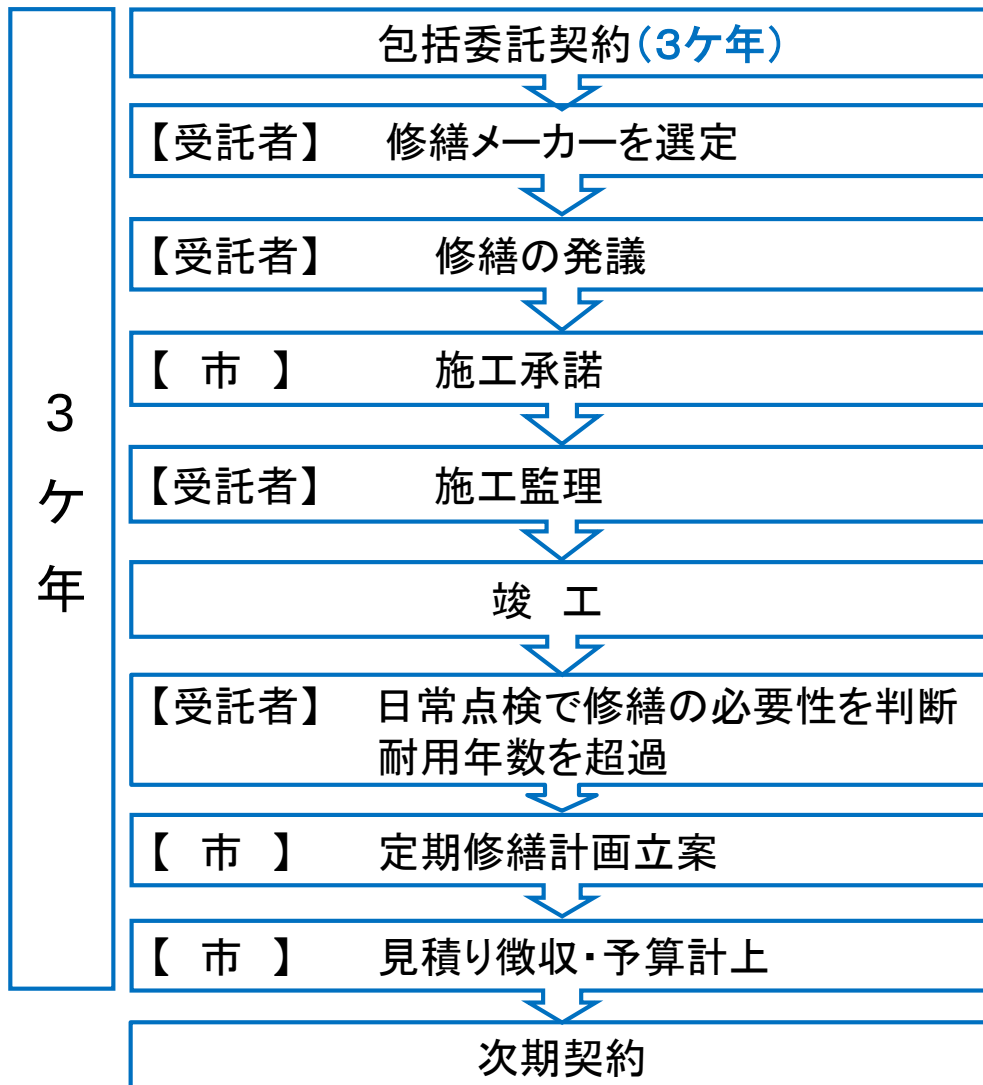


きらめき守り 夢彩都

包括的民間委託の拡張

包括的民間委託の現状

現行（R2～R4）



本市では、平成12年から包括的施設運営管理業務を委託し、薬品類の調達や施設の保守・運転管理、植栽管理、突発修繕に加え、定期修繕等を実施(LV3)

■ 現行委託のメリット

市の設計業務がないため、職員の事務負担が軽減され、かつ、迅速に着工可能

■ 現行委託の課題

(ヒト)

- ・職員による施工監理が行き届かない
- ・職員による設計や積算がなく工事費の妥当性の説明が困難

(モノ)

- ・定期修繕と改築更新の判断や更新資産の整理が難しい

(カネ)

- ・補助事業に馴染むものも、3条で修繕しているため単費で支出



これらの課題を解決するために・・・

拡張（R5～コンサル業務導入）

特徴

■ 包括委託の拡張

10
ヶ
年

包括委託契約(10ヶ年)

【受託者】 建設改良を包括委託に含め
コンサルが設計・積算し市に提出

【市】 入札・施工業者決定

【受託者】 施工監理

【受託者】 竣 工

【受託者】 次期ストックマネジメント立案

【受託者】 ストマネ対象施設選定

【受託者】 更新計画立案

【市・受託者】見積り徴収・予算計上

次期契約

10年契約により
ストマネ計画期間と
事業認可期間を整合

コンサル業務を導入
4条の設計及び工事
を包括委託で実施

工事は市が入札し、
透明性を確保しつつ
補助事業として実施

施工中の協議は市と
連携しつつ、施工監
理・設計変更等は
受託者主体で実施

契約期間の実績や
現場意見を反映して
受託者がストマネ
計画を立案

受託者の現場意見を
効果的に反映して
更新計画を立案

- ・包括委託に建設改良を
組入れ、ストマネに基づく
老朽化施設の更新を
包括委託の補助事業とし
て実施
- ・包括委託にコンサル業務
を導入し、建設改良の設
計積算、施工監理を実施



(ヒト)

- ・コンサルの導入で工事費
の妥当性が明確化し、職
員の 立会等の負担が軽減

(モノ)

- ・現場を反映した計画的な
更新を効果的に実現
- ・保守管理等の実態に即し
更新計画を立案

(カネ)

- ・国費活用で単費を抑制



ご清聴ありがとうございました